

みやき町学校施設長寿命化計画

令和 2 年 3 月



み や き 町



みやき町学校施設長寿命化計画

— 目 次 —

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1	背景.....	1
2	目的.....	2
3	計画期間	2
4	対象施設	3

第2章 学校施設の目指す姿

1	学校施設の目指すべき姿	5
---	-------------------	---

第3章 学校施設の実態

1	学校施設の運営状況・活用状況等の実態.....	8
2	対象建築物の整備状況.....	10
3	今後の維持・更新コストの把握（従来型）	11
4	施設の状態・評価方法.....	13
5	内部仕上げ・電気設備・機械設備	24

第4章 劣化状況評価結果

1	給食センター	26
2	小学校	27
3	中学校	44

第5章 学校施設整備の基本的な方針等

1	学校施設の規模・配置計画等の方針	59
2	改修等の基本的な方針	61

第6章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

1	改修等の整備水準.....	66
2	今後の維持・更新コストの把握（長寿命化型）	68
3	維持管理の項目・手法等.....	69

第7章 長寿命化の実施計画

1	改修等の優先順位付け.....	71
2	実施計画	72
3	今後10年間の整備内容.....	73

第8章 長寿命化計画の継続的運用方針

1	情報基盤の整備と活用.....	74
2	推進体制等の整備.....	74
3	フォローアップ	75
4	フォローアップの推進.....	75

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1 背景

みやき町（以下、「本町」という。）の公共施設等は、昭和40年頃から60年頃にかけて建設されたものが多く、今後、老朽化が進行し、一斉に改修・更新の時期を迎えます。

日本は全国的に深刻な人口減少問題を抱えていますが、本町においても人口が減少傾向にあり、今後も人口減少・少子高齢化が急速に進行することが見込まれています。さらに、扶助費等の社会保障費の増加、生産年齢人口の減少による税収の減少など、今後、ますます厳しい財政運営を強いられることが懸念されているため、これまでと同様の公共施設等の維持管理・運営や建替えにけることができる財源が限られてくることが予想されます。

本町では、公共施設やインフラ全体における整備の基本的な方針として「みやき町公共施設等総合管理計画」（以下、「総合管理計画」という。）を平成29年3月に策定し、限られた財源の中で、施設を安全・安心に利用できるよう、また、適正な規模や配置等により、住民サービスの維持・向上が図れるよう取り組みを進めているところです。

総合管理計画では、学校施設として、総延床面積 54,956 m²を有しており、延床面積で見ると、全ての町所有公共施設の40.1%を占めています。特に施設の劣化が急激に進行するといわれる築30年を経過した施設が多くを占めていることから、現状のまま保有し続けると、今後、約20年の間に多くの小中学校で耐用年数が到来することが見込まれ、老朽化対策が喫緊の課題となっています。

学校施設は、未来を担う子供たちが日常の多くの時間を過ごす教育施設であり、安心・安全で快適な教育環境の整備が求められます。また、地域住民にとっては行事等を通じて交流が行われる身近な公共施設であり、災害時には避難所としての重要な役割を果たすなど、防災面での機能も期待されています。今後はさらに、環境負荷の低減やユニバーサルデザインといった多様化するニーズへの対応が迫られ、改修・更新にかかる費用の増大が見込まれます。

2 目的

「みやき町学校施設長寿命化計画」（以下、「本計画」という。）は、この総合管理計画に基づき、学校施設の個別施設計画として、学校施設を対象に現地調査等を踏まえて現状の評価を行い、ライフサイクルコスト、保全優先度等を勘案しつつ、今後の維持保全の方向性を検討し、外壁、屋根、防水などの部位別や学校別の優先順位を考え、整備内容、時期、費用等の具体的な計画を策定することを目的とします。

本計画に基づき、学校施設の長寿命化を図ることにより、トータルコストの縮減と平準化を図り、厳しい財政状況においても計画的に保全を実施することで、長く安心・安全な学校施設を維持するとともに、多様化する教育環境へ対応していきます。

3 計画期間

総合管理計画は、公共施設の寿命が数十年に及び、中長期的な視点が不可欠であることから、平成29(2017)年度から令和28(2046)年度までの30年間の将来推計に基づき策定するものとしています。

本計画では、総合管理計画に則して、全体計画は30年間と位置づけます。その上で、令和2年(2020)年度から令和11年(2029)年度までを第1期として、今後10年間について検討するものとし、これらは、状況に応じて見直しを行います。

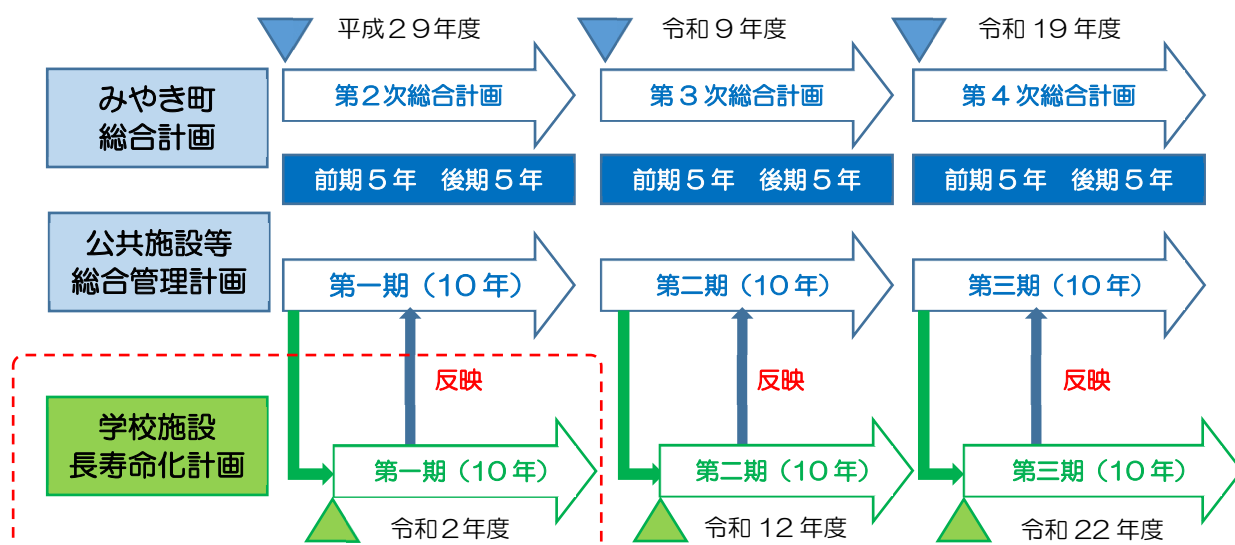


図 本計画の期間

4 対象施設

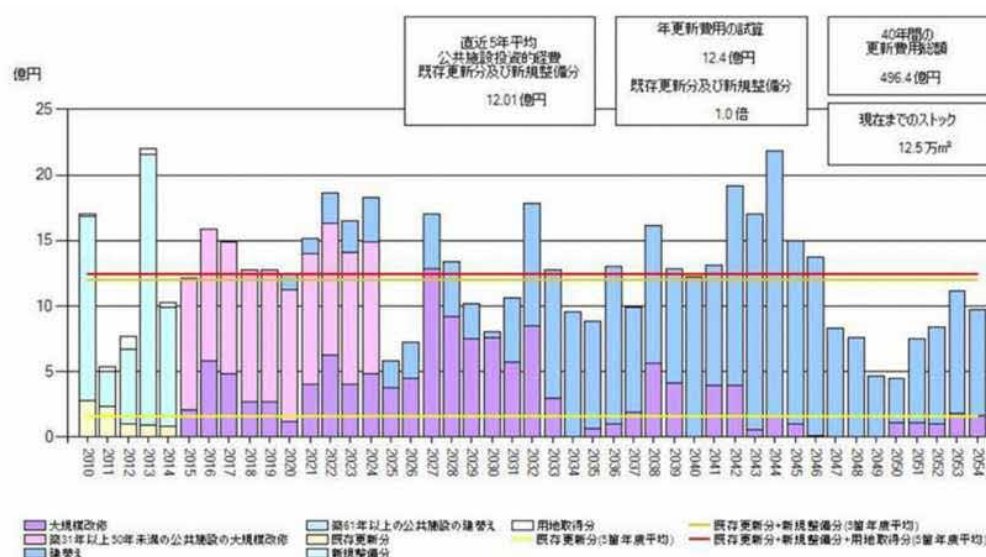
(1) 学校施設の保有量

総合管理計画によると、本町が保有する公共施設（ハコモノ）の総延床面積に対し、学校教育施設（全施設）は平成28年3月末現在で、40.1%を占めています。

表 大分類別 延床面積

大分類	延床面積(m ²)	割合
町民文化系施設	3,156	2.3%
社会教育系施設	682	0.5%
スポーツ・レクリエーション系施設	11,217	8.2%
産業系施設	2,876	2.1%
学校教育系施設	54,956	40.1%
子育て支援施設	2,910	2.1%
保健・福祉施設	5,745	4.2%
行政系施設	16,240	11.9%
公営住宅	38,235	27.9%
公園	239	0.2%
その他	629	0.5%
合計	136,886	100.0%

また、総合管理計画では、現状の建物を維持すると仮定した場合の資産更新必要額を試算しています。試算によりますと、今後40年間の更新費用総額は、496.4億円（年更新費用12.4億円）となっています。



(2) 対象施設

本計画の対象施設は、学校施設として保有している以下のとおりとします。

表 対象施設

学校施設	学校施設名	所在地
小学校	三根西小学校	みやき町大字寄人 1385
	三根東小学校	みやき町大字天建寺 2400
	中原小学校	みやき町大字原古賀 1364-2
	北茂安小学校	みやき町大字東尾 420
中学校	三根中学校	みやき町大字市武 1661
	中原中学校	みやき町大字養原 1475-9
	北茂安中学校	みやき町大字東尾 4435
学校給食共同調理場	学校給食センター	みやき町大字天建寺 1143-5



図 学校施設配置図

第2章 学校施設の目指す姿

学校施設の整備においては、施設の状態を把握し、施設の適正管理による維持・長寿命化を推進することが必要です。

施設の維持・長寿命化においては、安全面を中心とした老朽化対策が必要となります。老朽化が進み、劣化を見 overs と軒下のモルタルの落下やタイルの落下等が発生する可能性があり、非常に危険な状態となります。

以下、学校施設の目指すべき姿について示します。

1 学校施設の目指すべき姿

(1) 安全性の高い施設で地域の拠点も兼ねる

学校施設は、子ども達を通う施設であるとともに、緊急時には避難所等として地域の住民が活用する施設でもあります。学校を地域に対して開く場合は、同時に不審者等の侵入対策も重要になります。安全・安心な施設にするため、現在整備済である防犯カメラや警察への通報設備等のハード面の最良化と、学校・保護者・地域の協力等によるソフト面での取り組みを検討する必要があります。そのためには、以下の視点で施設の維持を心がける必要があります。

- ① 地震に強い学校施設
- ② 防災機能を備えた学校施設
- ③ 防犯・事故対策
- ④ 安全で安心な学校施設
- ⑤ バリアフリーに配慮した環境
- ⑥ 地域に開かれた学校とするための環境
- ⑦ 地域の生涯学習の拠点となる学校施設

(2) 快適性

学校施設の本来の目的は「学ぶ」空間の維持です。それには、子ども達が快適な学習環境の中で「学ぶ」ことができる空間を維持する必要があります。

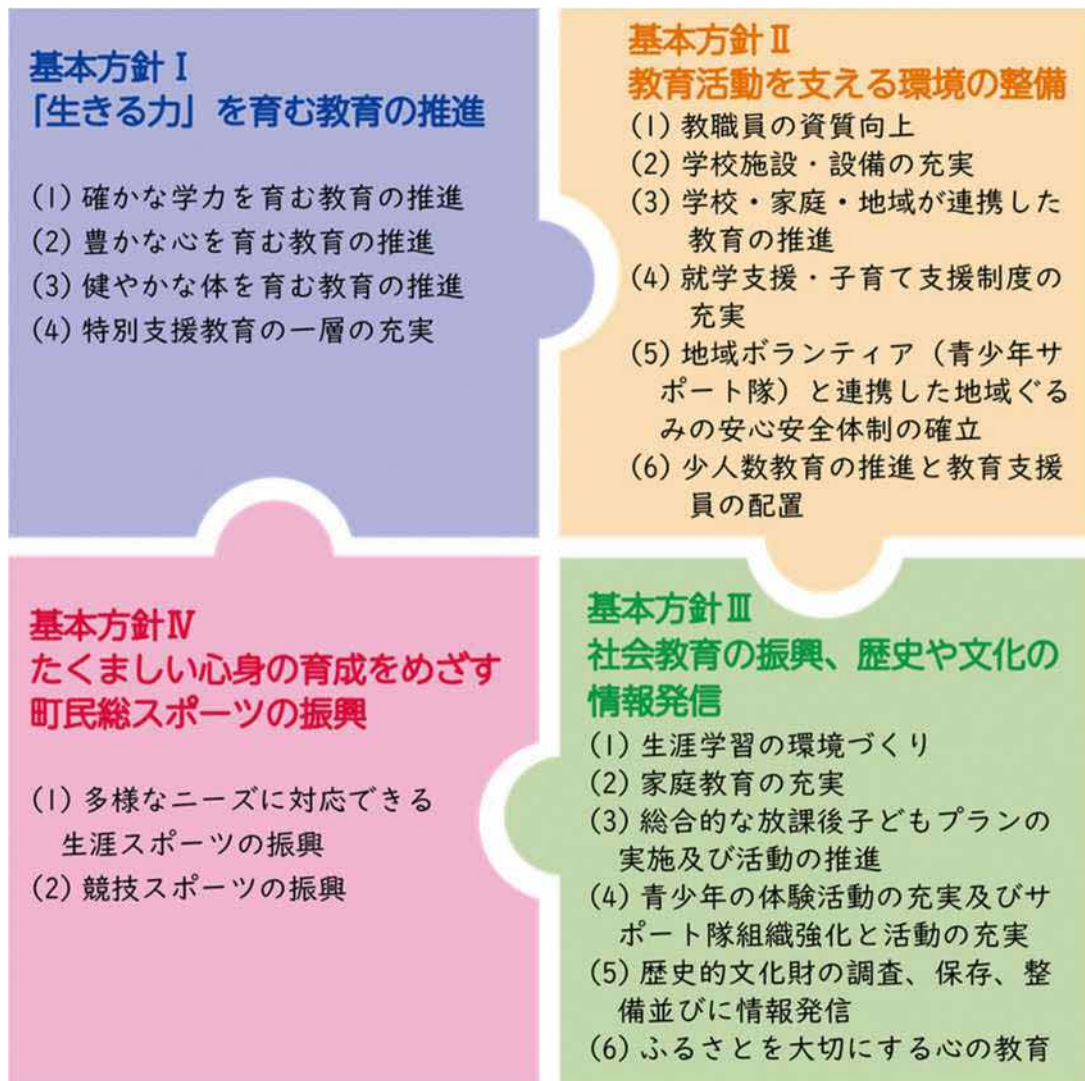
- ① 学習能率の向上に資する快適な環境
- ② 児童・生徒の学校への愛着や思い出につながり、また、地域の人々が誇りや愛着をもつことができる学校
- ③ バリアフリーに配慮した環境

(3) 学習活動への適応性

学校における教育方法は学級単位の一斉授業から、習熟度別学習やチームティーチングといった少人数での学習など多様な形態を取り入れる方向に向かっています。社会のグローバル化や、パソコンや携帯電話などの情報機器を日常的に使用する生活スタイルへの変化に応じて、学校における情報教育の重要性も高まっています。本町の学校施設は、こうした教育・学習のニーズに十分に対応した施設であることも重要です。

- ① 主体性を養う空間の充実
 - ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境
 - ・子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すための空間
 - ・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間
 - ・社会性を身に付けるための空間
- ② 効果的・効率的な施設整備
 - ・習熟度別指導や少人数指導等の、きめ細かい個に応じた指導を行うための空間

さらに本町では、次の図に示すような4つの教育基本方針を掲げています。



4つの教育基本方針の一つ「基本方針Ⅱ」の中で「(2) 学校施設・設備の充実」を挙げていますが、その中で、さらに具体的に次のように示しています。

【学校施設・設備の充実】

多様な子に応じた教育と、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成のため、ゆとりと潤いのある教育施設の整備充実を図ります。

児童生徒が一日の多くを過ごす生活の場として、また、個性や創造性を伸ばす学習の場として、安全・安心な学習環境の整備を図るとともに、教育内容の高度化や指導方法の多様化など時代のニーズに応じた施設・設備の充実に取り組みます。

また、知識基盤社会化やグローバル化に対応した子どもたちの育成と教育の質の向上を図るために、情報活用能力の育成と情報機器の効果的活用及び公務の情報化を実現するための教育ICT環境の整備をさらに進めるとともに、快適で適切な稼働環境の確保を図りつつ、適切な維持管理に努めます。

第3章 学校施設の実態

1 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

(1) 児童・生徒数の推移

本町の児童・生徒数は、徐々に減少しています。小学校児童数は、2009年の1,394人から微減を続け、2018年は1,231人となっています。中学校生徒数も、2009年653人から微減を続け、2018年は597人となっています。これに併せ、学級数も減少傾向にあります。

表 児童数・生徒数推移

学校名	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
小学校児童数	1,394	1,366	1,322	1,285	1,252	1,222	1,222	1,206	1,219	1,231
中学校生徒数	653	648	651	658	659	673	678	650	615	597

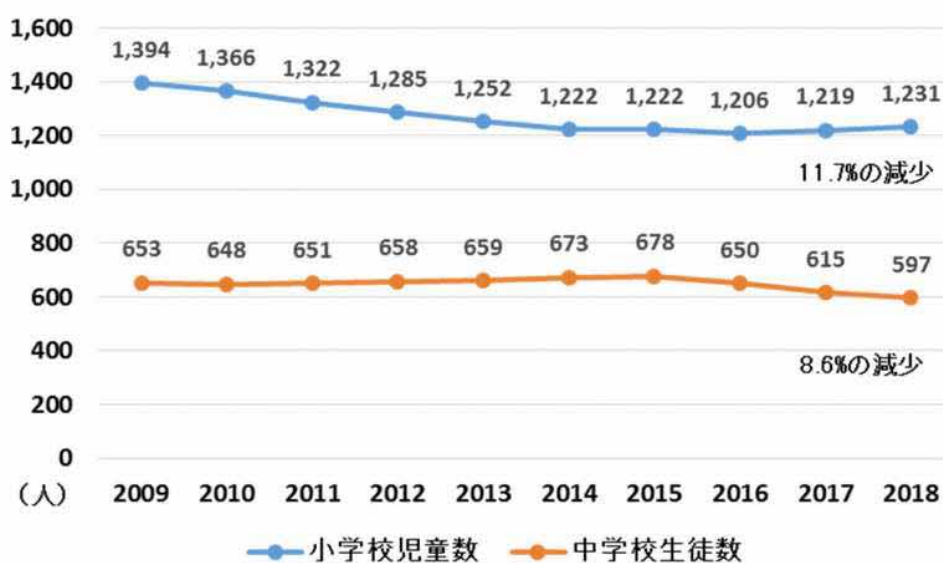


図 児童数・生徒数推移

第3章 学校施設の実態

表 学級数及び1学級当たりの児童数・生徒数推移

項目	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
小学校学級数	51	49	52	50	48	51	51	54	53	56
中学校学級数	24	23	25	26	27	27	27	27	28	28
小学校 児童数／学級数	27.3	27.9	25.4	25.7	26.1	24.0	24.0	22.3	23.0	22.0
中学校 生徒数／学級数	27.2	28.2	26.0	25.3	24.4	24.9	25.1	24.1	22.0	21.3

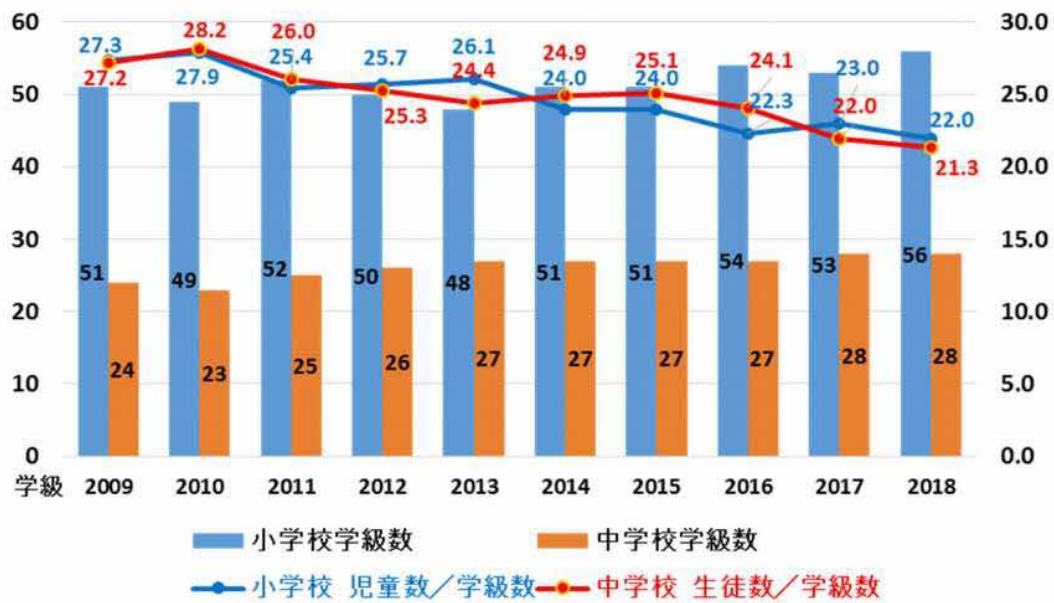


図 学級数及び1学級当たりの児童数・生徒数推移

資料：庁内資料

第3章 学校施設の実態

2 対象建築物の整備状況

(1) 対象建築物一覧

本計画の対象建築物は、前述の8つの学校施設のうち、長寿命化事業によるコスト低減効果の薄い小規模の建築物を除く以下の34棟の建物及びプールを対象とします。

対象建築物の延床面積合計は、51,852 m²であり、総合管理計画に示す本町の学校施設全体の延床面積合計の約94%に当たります。

表 計画の対象建築物（棟単位）

No.	施設名	建築物	延床面積 (㎡)	建築 年度	経過 年数	構造
1	給食センター	給食センター	776	2004	15	鉄骨造
2	三根西小学校	校舎	3,322	1982	37	鉄筋コンクリート造
3		講堂	758	1987	32	鉄筋コンクリート造
4		プール	1,165	1966	53	運動場用等プール
5	三根東小学校	管理棟	927	1990	29	鉄筋コンクリート造
6		校舎	2,496	1974	45	鉄筋コンクリート造
7		体育館	703	1972	47	鉄筋コンクリート造
8		プール	1,106	1962	57	運動場用等プール
9	中原小学校	体育館	1,192	1972	47	鉄筋コンクリート造
10		南校舎	3,985	1971	48	鉄筋コンクリート造
11		北校舎	1,990	1978	41	鉄筋コンクリート造
12		プール	1,204	1978	41	運動場用等プール
13		給食室	248	1978	41	鉄骨造
14	北茂安小学校	講堂兼体育館及び部室	1,924	1991	28	鉄筋コンクリート造
15		第一棟棟	1,003	1963	56	鉄筋コンクリート造
16		特別教室棟	2,055	1982	37	鉄筋コンクリート造
17		普通教室中棟	1,842	1983	36	鉄筋コンクリート造
18		普通教室中棟	1,407	1984	35	鉄筋コンクリート造
19		プール	1,275	1989	30	運動場用等プール
20	三根中学校	屋内運動場	1,485	2006	13	鉄筋コンクリート造
21		三根中校舎	4,840	2008	11	鉄筋コンクリート造
22	中原中学校	生徒昇降口及び玄関	234	1975	44	鉄筋コンクリート造
23		体育館	1,447	1981	38	鉄筋コンクリート造
24		南校舎	2,368	1975	44	鉄筋コンクリート造
25		北校舎	2,520	1975	44	鉄筋コンクリート造
26		プール	1,256	1978	41	運動場用等プール
27		技術棟	368	1979	40	鉄骨造
28	北茂安中学校	技術室	250	1970	49	鉄骨造
29		体育館	1,263	1975	44	鉄筋コンクリート造
30		中棟	1,964	1981	38	鉄筋コンクリート造
31		南棟	2,132	1978	41	鉄筋コンクリート造
32		部室	300	1994	25	鉄骨造
33		北棟	1,007	1980	39	鉄筋コンクリート造
34		プール	1,040	1985	34	運動場用等プール
合 計			51,852			

※築年数は2019年度末（2020年3月末）現在

※経過年数に着色があるものは旧耐震設計による施設と判断されるもの

(2) 対象建築物の整備状況

計画対象建築物の整備状況は下記のとおりです。

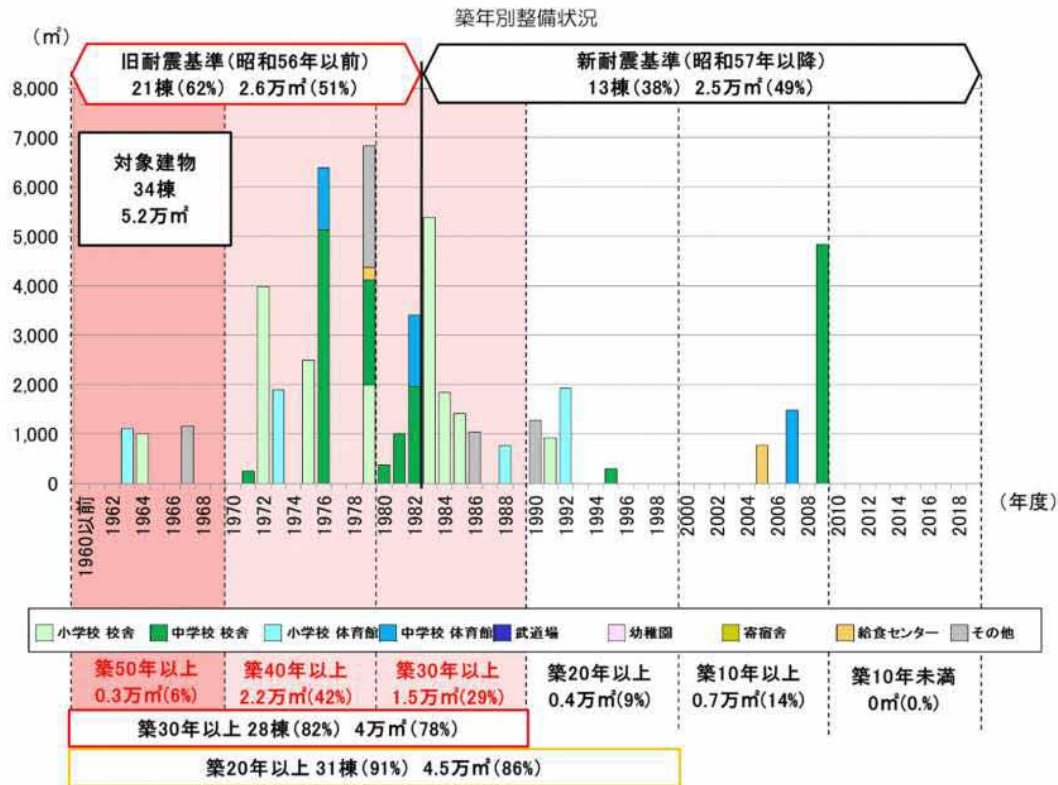


図 対象施設の整備状況

3 今後の維持・更新コストの把握(従来型)

過去5年間の施設管理費用は下記のとおりです。2018年には、各小学校で大規模改修を実施しています。

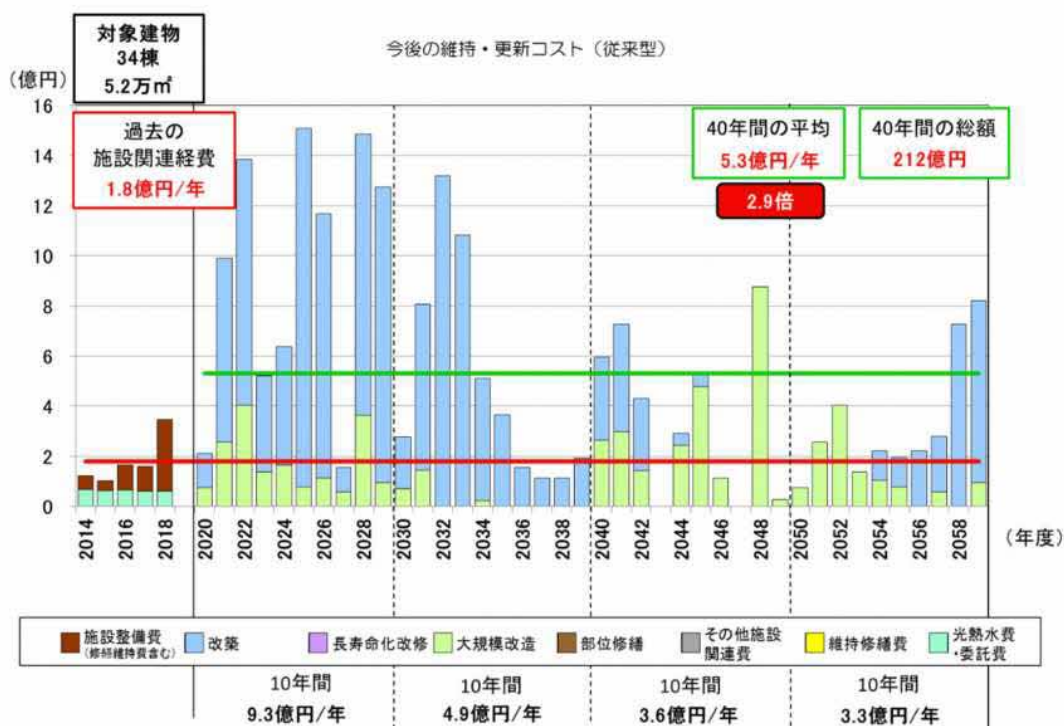
表 過去5年間の学校施設関連経費(単位:千円)

	項目	2014	2015	2016	2017	2018
1	【施設整備費】 改築・大規模改修 外壁改修・防水工事・エアコン取り 替え等予算化された改善	45,041	31,740	92,749	92,225	275,230
2	【その他の施設設備費】 電話代・通信費	544	544	539	522	548
3	【維持補修費】 営繕修理費(ドア修理、水漏れ修 理など)突発的な故障や損壊に対 応した修繕費用	8,780	7,028	5,642	5,760	9,890
4	【光熱費】 水道代・電気代・灯油燃料代	42,268	39,518	39,229	36,598	31,002
5	外部への外注費、管理委託費等	25,174	24,278	25,499	24,596	28,435
学校施設関連経費合計		121,807	103,108	163,659	159,701	345,105

第3章 学校施設の実態

本計画における長寿命化計画の対象建築物の維持・更新コストについて、文部科学省提供の試算ソフトにより、長寿命化を前提として試算した場合の結果は、以下のとおりです。

今後40年間の維持・更新コストは、総額で212億円と試算され、1年あたり約5.3億円の維持・更新コストが必要になると試算されます。



(設定条件)

更新周期：50年

改築単価：30万/㎡

大規模改修：20年周期

工事期間：1年

4 施設の状態・評価方法

(1) 劣化判定方法

屋根・屋上、外壁は目視状況により、内部仕上げ、電気設備、機械設備は部位の全面的な改修年からの経過年数を基本にA, B, C, Dの4段階で評価します。部位別に代表的な施工法の違いによる評価基準の判定目安について写真事例を用いて示します。内部仕上げ、電気設備、機械設備については、C及びDとする場合の事例を示します。

<評価基準>

表 目視による評価【屋根・屋上、外壁】

良好  劣化	評価	基準
	A	概ね良好
	B	部分的に劣化（安全上、機能上、問題なし）
	C	広範囲に劣化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）
	D	早急に対応する必要がある （安全上、機能上、問題あり） （躯体の耐久性に影響を与えている） （設備が故障し施設運営に支障を与えている）等

表 経過年数による評価【内部仕上げ、電気設備、機械設備】

良好  劣化	評価	基準
	A	20年未満
	B	20～40年
	C	40年以上
	D	経過年数に関わらず著しい劣化 事象がある場合

＜健全度の算定＞

健全度とは、各建築物の5つの部位について劣化状況を4段階で評価し、100点満点で数値化した評価指標です。部位のコスト配分を下表のように定め、健全度を100点満点で算定します。なお、部位のコスト配分は、文部科学省の「長寿命化改良事業」の校舎の改修費算定表を参考に、同算定表における「長寿命化」の7％分を屋根・屋上、外壁に算定しています。

表 部位の評価点

評価	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

表 部位のコスト配分

部位	コスト配分
屋根・屋上	5.1
外壁	17.2
内部仕上げ	22.4
電気設備	8.0
機械設備	7.3
合計	60.0

計算例：総和(部位の評価点×部位のコスト配分) ÷ 60(コスト配分合計)

表 計算例

部位	評価		評価点例		コスト配分		配分評価点
屋根・屋上	C	→	40	×	5.1	=	204
外壁	D	→	10	×	17.2	=	172
内部仕上げ	B	→	75	×	22.4	=	1,680
電気設備	A	→	100	×	8.0	=	800
機械設備	C	→	40	×	7.3	=	292
計							3,148
							÷ 60
							健全度 52

※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示します。

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成29年3月文部科学省）

表 評価基準：屋根・屋上

	評価	状態	現場写真例
アスファルト保護防水	A	良好 (汚れている程度) (改修後 10 年以内)	
	B	部分的に、ひび割れ、変質、排水不良、目地シーリングの損傷がある。	
	C	広範囲に、ひび割れ、変質、排水不良、土砂の堆積、雑草、目地シーリングの損傷が見られ、最上階天井に漏水痕がある。	
	D	広範囲に、損壊、幅広のひび割れ、排水不良があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。	

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）

表 評価基準：屋根・屋上

	評価	状態	現場写真例
アスファルト露出防水	A	良好 (汚れている程度) (改修後 10 年以内)	
	B	部分的に、ふくれ、変質（摩耗）、排水不良がある。	
	C	広範囲に、ひび割れ、変質（摩耗）、排水不良、土砂の堆積、雑草が見られ、最上階天井に漏水痕がある。	
	D	広範囲に、破断、損壊、下地露出、幅広のひび割れがあり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。	

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）

表 評価基準：屋根・屋上

	評価	状態	現場写真例
シート防水	A	良好 (汚れている程度) (改修後 10 年以内)	
	B	部分的に、ふくれ、しわ、変質（摩耗）、排水不良がある。	
	C	広範囲に、ふくれ、しわ、穴あき、変質（摩耗）、排水不良、土砂の堆積、雑草が見られ、最上階天井に漏水痕がある。	
	D	広範囲に、破断、めくれ、下地露出があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。	

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）

表 評価基準：屋根・屋上

	評価	状態	現場写真例
塗膜防水	A	良好 (汚れている程度) (改修後 10 年以内)	
	B	部分的にふくれ、しわ、変質 (スポンジ状)、排水不良がある。	
	C	広範囲に、ふくれ、しわ、穴あき、変質(摩耗)、排水不良、土砂の堆積、雑草が見られ、最上階天井に漏水痕がある。	
	D	広範囲に、破断、めくれ、下地露出があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。	

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）

表 評価基準：屋根・屋上

	評価	状態	現場写真例
金属板（長尺、折板、平葺き）	A	良好 （汚れている程度） （改修後 10 年以内）	
	B	部分的に、塗装のはがれ、さび、変質、シーリング材のひび、金物のさびがある。	
	C	広範囲に、塗装のはがれ、さび、変質、シーリング材のひび、取り付け金物のさび、部分的な腐食・損壊があり、最上階天井に漏水痕がある。	
	D	広範囲に、さび、はがれ、腐食、取付金物の損壊があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。	

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）

表 評価基準：外壁

	評価	状態	現場写真例
塗り仕上げ	A	良好 (汚れている程度) (改修後 10 年以内)	
	B	部分的に、ひび割れ・変質・浮き・さび汁がある。	
	C	広範囲に、ひび割れ・亀甲状のひび割れ・変質・浮き・剥がれ・さび汁があり、小規模な漏水がある。	
	D	広範囲に、剥落・爆裂・幅広のひび割れがあり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。	

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）

表 評価基準：外壁

	評価	状態	現場写真例
タイル張り石張り	A	良好 (汚れている程度) (改修後 10 年以内)	
	B	部分的に、ひび割れ・変質・浮き・はらみ・さび汁・シーリング材のひびがある。	
	C	広範囲に、ひび割れ・変質・浮き・はらみ・さび汁・シーリング材のひびがあり、小規模な漏水がある。	
	D	広範囲に、剥落・爆裂・幅広のひび割れがあり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。	

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）

表 評価基準：外壁

	評価	状態	現場写真例
金属系パネル	A	良好 (汚れている程度) (改修後 10 年以内)	
	B	部分的に、さび・変質・シーリング材のひびがある。	
	C	広範囲に、さび・変質・シーリング材のひび・取付金物のさびがあり、小規模な漏水がある。	
	D	広範囲に、さび・腐食・ぐらつき・取付金物の腐食があり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。	

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）

表 評価基準：外壁

	評価	状態	現場写真例
セメント系パネル	A	良好 (汚れている程度) (改修後 10 年以内)	
	B	部分的に、ひび割れ・変質・欠損・シーリング材のひびがある。	
	C	広範囲に、ひび割れ・変質・シーリング材のひび・取付金物のさびがあり、小規模な漏水がある。	
	D	欠落・ぐらつき・取付金物の腐食・シーリング材の欠落があり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。	

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）

5 内部仕上げ・電気設備・機械設備

内部仕上げと設備は修繕・改修年からの経過年数を基本に4段階で評価します。ただし極端な劣化が見られる場合はC/D評価について確認します。

表 評価基準：内部仕上げ、電気設備、機械設備

内部仕上げ	CまたはD	●床、壁、天井 ●内部開口部（扉、窓、防火戸） ●室内表示、手すり、固定家具 ●照明器具、衛生器具、冷暖房器具	●内部仕上げと設備機器について、該当建築物の概ね半分以上の部屋（床面積）にわたって行った改修工事の実施年度を基準とし、経過年数で評価する。 ●広範囲（25%以上の面積）または随所（5か所以上）に劣化事象がみられる場合は、評価を1段階下げることを目安とする。
電気設備	CまたはD	●建築物内の分電盤・配線・配管（電灯・コンセント設備）（弱電設備）	●建築物内の分電盤・配線・配管について、該当建築物の概ね半分以上の部屋（床面積）にわたって行った改修工事の実施年度を基準とし、経過年数で評価する。 （対象外の工事の例） ・受変電設備の更新 ・防災設備、放送設備など、単独設備の更新（評価例） ・視聴覚室やコンピューター室などの改修（整備）はしているが、他の部分は40年以上経過している場合は、C評価
機械設備	CまたはD	●建築物内の給水配管・給湯配管・排水配管・ガス配管	●建築物内の給水配管・給湯配管・排水配管について、該当建築物の概ね半分以上の部屋（床面積）にわたって行った改修工事の実施年度を基準とし、経過年数で評価する。 （対象外の工事の例） ・部分的な修繕等（評価例） ・給水配管の更新済みで、排水配管は40年以上経過してる場合は、C評価 ・給排水配管を一度も更新せず、40年以上経過している場合は、D評価

第4章 劣化状況評価結果

第4章 劣化状況評価結果

簡易劣化調査による結果は以下のとおりです。

表 劣化調査結果一覧表

番号	施設名	建物名	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度
1	給食センター	給食センター	B	B	A	A	A	91
2	三根西小学校	校舎	A	B	B	B	B	77
3		講堂	B	C	B	B	B	65
4		プール	C	C	C	C	C	40
5	三根東小学校	管理棟	A	B	B	B	B	77
6		校舎	A	B	C	C	C	55
7		体育館	A	B	C	C	C	55
8		プール	C	C	C	C	C	40
9	中原小学校	体育館	A	C	C	C	C	45
10		南校舎	A	C	C	C	C	45
11		北校舎	A	C	C	C	C	45
12		プール	C	B	C	C	C	50
13		給食室	A	A	A	A	A	100
14	北茂安小学校	講堂兼体育館及び部室	B	B	B	B	B	75
15		第一棟棟	C	B	C	C	C	50
16		特別教室棟	A	C	B	B	B	67
17		普通教室中棟	A	C	B	B	B	67
18		普通教室中棟	A	C	B	B	B	72
19		プール	C	C	B	B	B	62
20	三根中学校	屋内運動場	B	B	A	A	A	91
21		校舎	B	B	A	A	A	91
22	中原中学校	生徒昇降口及び玄関	A	B	C	C	C	55
23		体育館	A	B	B	B	B	77
24		南校舎	A	B	C	C	C	55
25		北校舎	C	B	C	C	C	50
26		技術棟	B	C	C	C	C	43
27		プール	B	C	C	C	C	43
28	北茂安中学校	技術室	B	B	C	C	C	53
29		体育館	B	B	C	C	C	53
30		中棟	A	B	B	B	B	77
31		南棟	A	B	C	C	C	55
32		部室	C	A	B	B	B	79
33		北棟	B	B	B	B	B	75
34		プール	C	C	B	B	B	62

1 給食センター

(1) 給食センター

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
1	給食センター	S	2	776	2004	B	B	A	A	A	91

全景	屋根の状況①
	
外壁の状況	屋根の状況②
	

<所 見>

築15年の鉄骨造の施設です。食品を扱う給食センターであり、衛生面に留意した施設で内部に大きな劣化等不具合はありません。外部には、部分的な劣化、汚れが見られます。屋根は一部に錆などが発生している箇所があります。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

2 小学校

(1) 三根西小学校

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
2	校舎	RC	3	3,322	1982	A	B	B	B	B	77

全景	屋根の状況(工事中)
	
外壁の状況	防火扉
	

<所 見>

築37年の鉄筋コンクリート造の学校校舎です。屋上防水は改修工事中です。

外壁や土間に、ひび割れなどの劣化が見られますが、早急な改修工事は不要と考えられます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
3	講堂	RC	2	758	1987	B	C	B	B	B	65

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築32年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は表面のシートの劣化が見られます。外壁に、ひび割れなどの劣化が見られます。床や壁にもひび割れや、表面劣化が見られます。

早い段階での補修改修計画の策定が望ましいと考えられます。

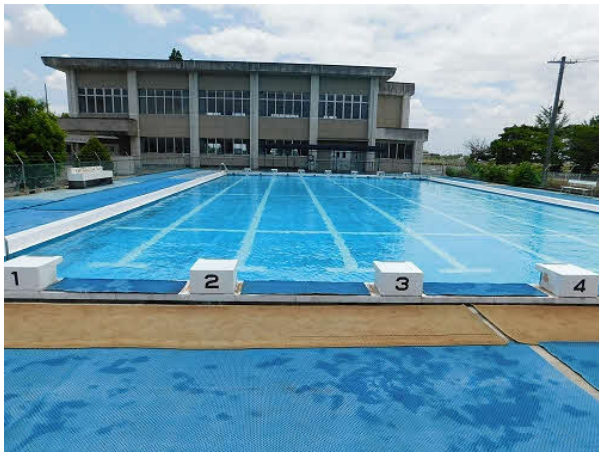
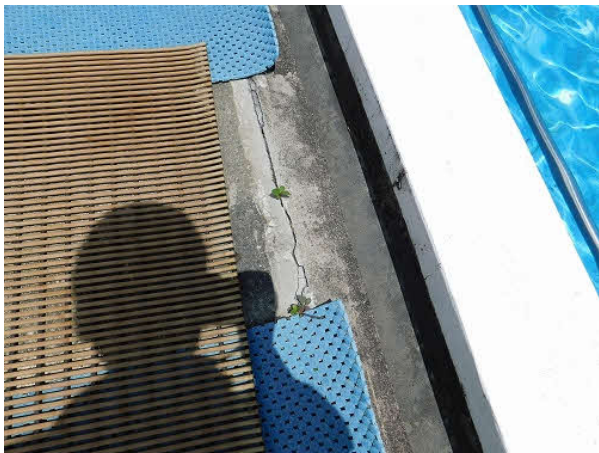
<整備方針>

計画期間内では外壁の改修工事を実施します。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
4	プール	RC	1	1,165	1966	C	C	C	C	C	40

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	機械設備
	

<所 見>

築53年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。更衣室の底に水が浸透した跡が見られます。外壁にひび割れなどの劣化が見られます。

プールサイドの床にもひび割れや、表面劣化が見られます。また、プール本体の塗装の劣化が見られます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

(2) 三根東小学校

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度
5	管理棟	RC	3	927	1990	A	B	B	B	B	77

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築29年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は改修工事対応済みで問題ありません。外壁に、部分的なひび割れ、シーリングの割れなどの劣化が見られます。内部の床や壁にもひび割れや、表面劣化が見られますが、特に早急な補修改修計画の策定は不要と考えられます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
6	校舎	RC	3	2,496	1974	A	B	C	C	C	55

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	内部廊下
	

<所 見>

築45年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は改修工事対応済みで問題ありません。外壁に、部分的なひび割れなどの劣化が見られます。外階段の基礎部で地盤の変形が見られます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
7	体育館	RC	2	703	1972	A	B	C	C	C	55

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外階段
	

<所 見>

築47年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は改修工事対応済みで問題ありません。外壁に、部分的なひび割れなどの劣化が見られます。外階段の基礎部で地盤の変形が見られます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
8	プール	RC	1	1,106	1962	C	C	C	C	C	40

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況
	

<所 見>

築57年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は更衣室の屋根の劣化が進行しています。更衣室周辺に地盤沈下が見られ、更衣室の基礎部が劣化しています。鉄柵にさびが多く見られます。

プールサイドの床にも大きなひび割れが見られます。早い段階での補修改修計画の策定が望ましいと考えられます。

<整備方針>

プールについては定期的に点検を実施し、安全確保の上、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

(3) 中原小学校

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
9	体育館	RC	2	1,192	1972	A	C	C	C	C	45

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築47年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は改修工事対応済みで問題ありません。外壁に部分的なひび割れや爆裂などの劣化が見られます。外階段の基礎部で地盤の変形が見られます。

<整備方針>

計画期間内では屋上防水、外壁の改修工事を実施します。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
10	南校舎	RC	3	3,985	1971	A	C	C	C	C	45

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	屋根の状況②
	

<所 見>

築48年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。調査時、屋上防水は表面の防水シーートの劣化が見られましたが、平成30年度に改修を行っています。外壁に、ひび割れなどの劣化が見られます。床や壁にもひび割れや、表面劣化が見られます。

<整備方針>

計画期間内では外壁の改修工事を実施します。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
11	北校舎	RC	3	1,990	1978	A	C	C	C	C	45

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築41年の鉄筋コンクリート造りの学校施設です。屋上防水は改修工事対応済みで問題ありません。外壁に、部分的にひび割れや塗装の剥離等の劣化が見られ、特にバルコニーの手摺壁については著しいひび割れが見られます。内部の床や壁にもひび割れや、表面劣化が見られます。

外壁（バルコニー）については早い段階での補修改修計画の策定が望ましいと考えられます。

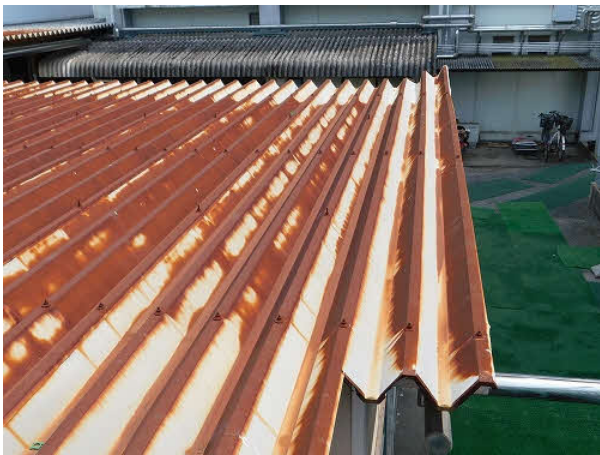
<整備方針>

計画期間内では外壁の改修工事を実施します。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
12	プール	RC	1	1,204	1978	C	B	C	C	C	50

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築41年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は更衣室の屋根全面に錆が発生しています。フェンス下のブロックに経年劣化が見られます。プールサイドの床には所々ひび割れが見られます。

早い段階での補修改修計画の策定が望ましいと考えられます。

<整備方針>

プールについては定期的に点検を実施し、安全確保の上、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
13	給食室	S	1	248	1978	A	A	A	A	A	100

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

＜所 見＞

築41年の鉄骨造の施設です。屋上、外壁、内装とも大規模改修工事が実施されており、問題はありません。

＜整備方針＞

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

(4) 北茂安小学校

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度
14	講堂兼体育館及び部室	RC	2	1,924	1991	B	B	B	B	B	75

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外階段
	

<所 見>

築28年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は排水不良があり、排水溝周りの滞水が見られます。外壁に、ひび割れなどの劣化が見られます。

床や壁にもひび割れや、表面劣化が見られます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
15	第一棟棟	RC	2	1,003	1963	C	B	C	C	C	50

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	エクspansion部
	

<所 見>

築50年を超えている鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上は防水シートのひび割れや、表面劣化が著しく見られます。外壁に、ひび割れなどの劣化が見られます。床や壁にもひび割れや、表面劣化が見られます。

早い段階での補修改修計画の策定が望ましいと考えられます。

<整備方針>

計画期間内では屋上防水の改修工事を実施します。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
16	特別教室棟	RC	3	2,055	1982	A	C	B	B	B	67

全景	屋根の状況
	
屋根の状況②	外壁の鉄筋露出
	

<所 見>

築37年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。調査時、屋上防水はシーリングの劣化が激しく、ひび割れも多く見られましたが、令和元年度に改修を行っています。外壁に、部分的なひび割れ、鉄筋の露出などの劣化が見られます。

内部の壁にはひび割れや、表面劣化が見られますが、特に早急な補修改修計画の策定は不要と考えられます。

<整備方針>

計画期間内では外壁の改修工事を実施します。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
17	普通教室中棟	RC	3	1,842	1983	A	C	B	B	B	67
18	普通教室中棟	RC	3	1,407	1984	A	C	B	B	B	72

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	エキスパンション部
	

<所 見>

築35年以上の鉄筋コンクリート造の学校校舎です。屋上防水は平成30年度に改修を行っています（調査時工事中）。外壁や土間に、ひび割れなどの劣化が見られますが、早急な改修工事は不要と考えられます。

エキスパンション部に雨漏り箇所が見られ、この部分については早期の補修改修計画の策定が望ましいと考えられます。

<整備方針>

計画期間内では外壁の改修工事を実施します。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
19	プール	RC	1	1,275	1989	C	C	B	B	B	62

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築30年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は更衣室の屋根にかなりさびが発生しています。外壁にひび割れや白華が見られます。東側に地盤沈下が見られます。プールサイドや観覧席の床には所々ひび割れが見られます。プール本体の塗装も劣化しています。

<整備方針>

プールについては定期的に点検を実施し、安全確保の上、事後保全による対応をおこないます。

3 中学校

(1) 三根中学校

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
20	屋内運動場	RC	2	1,485	2006	B	B	A	A	A	91

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築13年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は防水シートの経年劣化が見られます。外壁に、ひび割れなどの劣化が見られます。

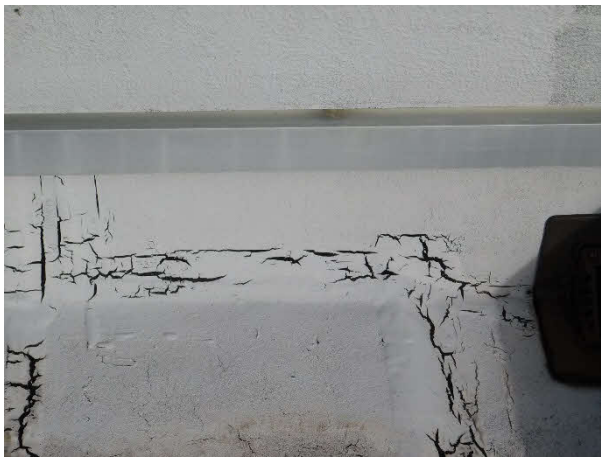
<整備方針>

特に早急な補修改修計画の策定は不要と考えられますが、改修の検討をおこなうことが望ましいと考えられます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
21	校舎	RC	3	4,840	2008	B	B	A	A	A	91

全景	屋根の状況
	
屋根の状況②	外壁の状況
	

<所 見>

築11年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は排水不良のための水溜まりや防水シートの劣化が見られますが、早急な補修改修計画の策定は不要と考えられます。外壁に、部分的なひび割れ塗装の剥離、白華などの劣化が見られます。

特に早急な補修改修計画の策定は不要と考えられます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

(2) 中原中学校

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度
22	生徒昇降口及び玄関	RC	3	234	1975	A	B	C	C	C	55

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築44年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は令和元年度に改修を行っています。外壁に、部分的なひび割れや白華などの劣化が見られます。

特に早急な補修改修計画の策定は不要と考えられます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
23	体育館	RC	2	1,447	1981	A	B	B	B	B	77

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築38年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は改修工事対応済みで問題ありません。外壁に、ひび割れの補修跡が多くみられます。また、小さなひび割れも多く見られます。

改修計画の策定が必要と考えられます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
24	南校舎	RC	3	2,368	1975	A	B	C	C	C	55

全景	屋根の状況
	
屋根の状況②	外壁の状況
	

<所 見>

築44年の鉄筋コンクリート造りの学校施設です。屋上防水は令和元年度に改修工事を実施しています。外壁に、部分的にひび割れや塗装の剥離等の劣化が見られます。内部の床や壁にもひび割れや、表面劣化が見られます。

特に早急な補修改修計画の策定は不要と考えられます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
25	北校舎	RC	3	2,520	1975	C	B	C	C	C	50

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	雨樋貫通部
	

<所 見>

築44年の鉄筋コンクリート造りの学校施設です。屋上防水は防水膜の経年劣化が見られます、改修の検討が必要です。外壁に、部分的にひび割れや塗装の剥離等の劣化が見られます。内部の床や壁にもひび割れや、表面劣化が見られます。

<整備方針>

計画期間内では屋上防水の改修工事を実施します。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
26	プール	RC	1	1,256	1978	B	C	C	C	C	43

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築41年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は問題ありません。外壁にひび割れが見られます。また、鉄筋が露出しており、爆裂の補修跡もあります。プールサイドや観覧席の床には所々ひび割れが見られます。プールサイドの床にひび割れが見られ、塗装の劣化も進行しています。

早い段階での補修改修計画の策定が望ましいと考えられます。

<整備方針>

プールについては定期的に点検を実施し、安全確保の上、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
27	技術棟	S	1	368	1979	B	C	C	C	C	43

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築40年の鉄骨造の学校施設です。屋根は経年劣化が見られます。外壁は鉄骨の基礎部が破損しており、早急な対応が必要と思われます。

<整備方針>

計画期間内では外壁の改修工事を実施します。

第4章 劣化状況評価結果

(3) 北茂安中学校

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積(m ²)	建築年度	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度
28	技術室	S	3	250	1970	B	B	C	C	C	53

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築49年の鉄骨造の学校施設です。屋上防水は、雨どいに枯葉が集積しており排水が困難になっています。外壁は犬走にひび割れが見られます。

特に早急な補修改修計画の策定は不要と考えられます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
29	体育館	RC	2	1,263	1975	B	B	C	C	C	53

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築44年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は、渡り廊下の屋根に錆が発生しています。外壁はひび割れや塗装の剥離が見られます。

特に早急な補修改修計画の策定は不要と考えられます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
30	中棟	RC	3	1,964	1981	A	B	B	B	B	77

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	
	

<所 見>

築38年の鉄筋コンクリート造りの学校施設です。屋上防水は改修工事対応済みで問題ありません。外壁はひび割れの補修跡が見られます。側溝の側面にひび割れが見られます。内部の天井や壁にもひび割れや、表面劣化が見られますが、特に早急な補修改修計画の策定は不要と考えられます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
31	南棟	RC	3	2,132	1978	A	B	C	C	C	55

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築41年の鉄筋コンクリート造りの学校施設です。屋上防水は改修工事対応済みで問題ありません。外壁はひび割れの補修跡が見られます。また、犬走にひび割れが見られます。

内部の天井や壁にもひび割れや、表面劣化が見られますが、特に早急な補修改修計画の策定は不要と考えられます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
32	部室	S	3	300	1994	C	A	B	B	B	79

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
 調査時	 調査時

<所 見>

築25年の鉄骨造りの学校施設です。屋上防水は塗装の剥離が見られます。外壁は平成30年度に改修済みです。

<整備方針>

計画期間内では屋上防水の改修工事を実施します。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
33	北棟	RC	3	1,007	1980	B	B	B	B	B	75

全景	屋根の状況
	
屋根の状況②	外壁の状況
	

<所 見>

築39年の鉄筋コンクリート造りの学校施設です。屋上防水は改修工事対応済みで問題ありませんが、排水不良のため水溜まりができていますので、この部分については早急に対応したほうがよいと思われます。外壁はひび割れの補修跡が多く見られます。内部の天井や壁にもひび割れや、表面劣化が見られますが、特に早急な補修改修計画の策定は不要と考えられます。

<整備方針>

定期的に点検を実施し、事後保全による対応をおこないます。

第4章 劣化状況評価結果

表 劣化診断結果

NO	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築 年度	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度
34	プール	RC	1	1,040	1985	C	C	B	B	B	62

全景	屋根の状況
	
外壁の状況	外壁の状況②
	

<所 見>

築34年の鉄筋コンクリート造の学校施設です。屋上防水は更衣室の防水シートにひび割れが見られます。また、雨どいに植物が繁殖し、排水を困難にしています。外壁にひび割れや鉄筋露出、白華が見られます。プールサイドや観覧席の床には所々ひび割れが見られます。プールサイドの床にひび割れが見られ、塗装もかなり劣化しています。

<整備方針>

プールについては定期的に点検を実施し、安全確保の上、事後保全による対応をおこないます。

第5章 学校施設整備の基本的な方針等

1 学校施設の規模・配置計画等の方針

(1) 総合管理計画における個別基本方針

総合管理計画では下記の個別基本方針を掲げています。

- 将来の児童生徒数の予測を踏まえ、本町の学校教育方針や財政状況、地域の実情等を考慮した上で、延床面積数量等の最適化を図ります。数量の適正化においては、校舎が更新を迎える時期の児童生徒数のみならず躯体耐用年数間の変動を勘案し、増改築、用途変更、統廃合などに柔軟に対応できるようにします。
- 建築基準法第12条に基づく3年以内ごとの法定点検に加え、日常的な自主点検を実施し、老朽箇所の把握と安全性の確保を行います。
- 建築系の長期にわたる基本的な機能・性能あるいは安全性を維持していくために、計画的な改修、修繕等を実施し、適正に維持保全していく必要があります。そのため、様々な規模・内容の工事がある中で、大規模改修と部分改修を勘案し計画的に実施します。
- 建築物構造により異なりますが、躯体耐用年数（財産処分年数：鉄筋コンクリート造であれば60年）の間、学校施設として活用することを基準に考え、築30年前後に大規模改修工事を検討・計画して実施します。また、躯体耐用年数が残存10年未満のものより建替え・更新等を検討します。
- 老朽化が進んだ施設は、施設コストが増えることが予想されますが、予防保全を実施することでトータルコストの縮減を図ります。水道光熱費が割高の施設については、運用や設備における省エネ策を検討します。各施設に共通する業務委託における仕様の標準化や委託の包括化などの方法を検討しコストダウンを図ります。

総合管理計画における基本方針や施設類型別方針に即し、学校施設の長寿命化や維持・管理に関する基本方針を以下に定めます。

1. 児童・生徒の安全・安心を守る計画的保全と長寿命化の推進

児童・生徒が生活する場でもあることから、定期的な日常点検、必要に応じて劣化診断などを実施し、施設の状態や劣化状況の把握、危険・不具合箇所の早期発見に努めながら、劣化や危険性が認められた箇所については、出来るだけすみやかに修繕又は安全対策を実施します。

施設の更新については、建替えから長寿命化改修による建物の長寿命化に切り替え、部位改修を併用した整備を行います。

また、適切な維持管理による財政負担の平準化及び計画的に予防保全的な部分修繕・改修を行うことにより、ライフサイクルコストの削減を図ります。

2. 施設保有量の最適化

今後、児童・生徒数の増減や分布に注視し、将来的には、必要に応じ適正規模・適正配置について検討します。

その際、地域の公民館といった社会教育施設、スポーツ施設等の地域の実状に応じた機能の再編についても検討します。

(2) 学校施設の規模・配置計画等の方針

本計画において、学校施設は、原則として現在の規模・配置を維持します。

2 改修等の基本的な方針

(1) 長寿命化の方針

厳しい財政状況の下では、従来の改築を中心とした老朽化対策では、対応しきれない施設が大半です。中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現するため、改築より工事費が安価で、廃棄物や二酸化炭素の排出量が少ない長寿命化改修への転換を図ります。

なお、改築せざるを得ない建物があった場合には、改築までの期間に応急的な保全を行うなど、当面の安全性・機能性等の確保に努めます。

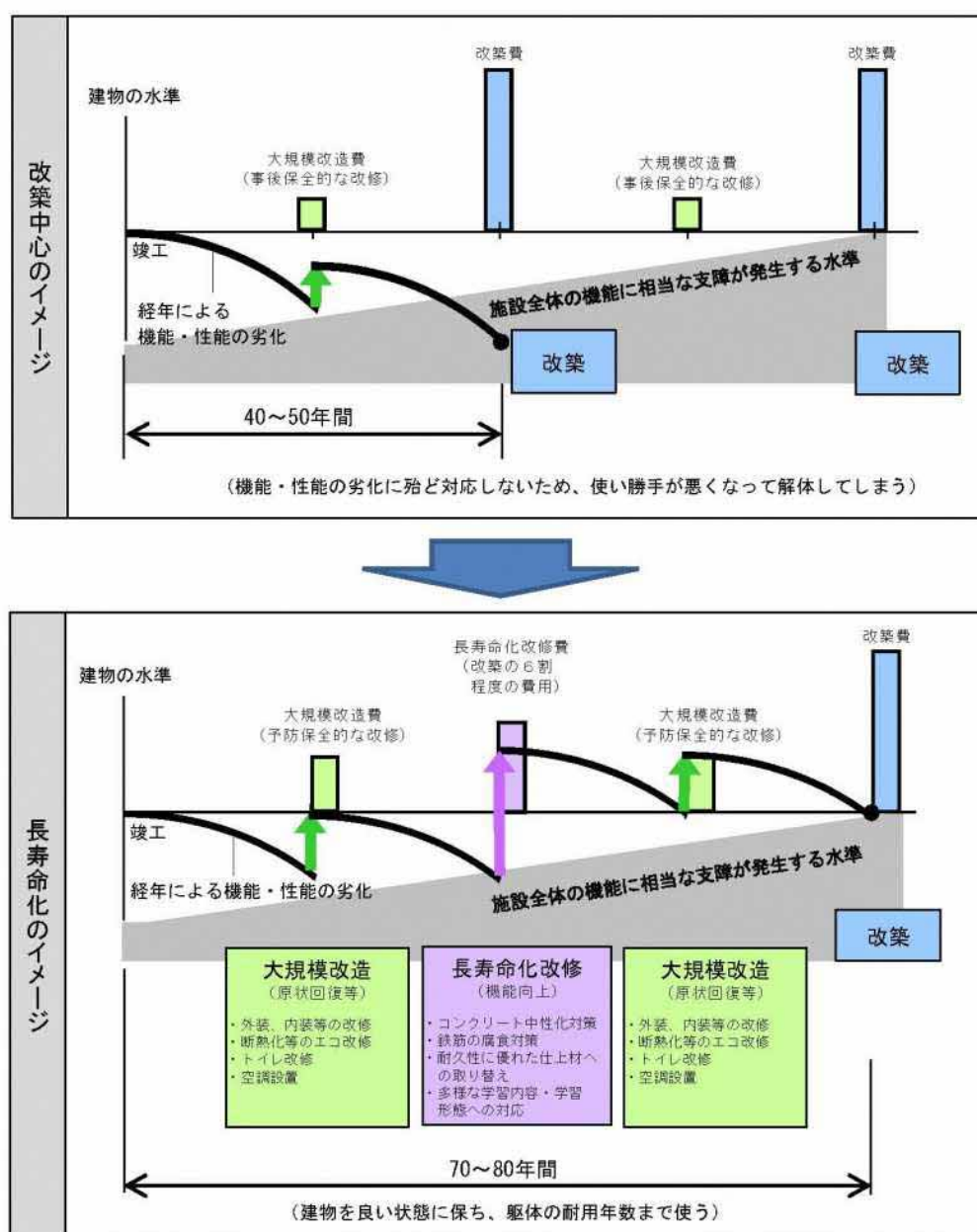


図 改築中心から長寿命化への転換イメージ

(2) 目標使用年数、改修周期の設定

① 予防保全の方針

建物は、屋根や外壁などの劣化や破損への対応を対処療法的に行うと、建物の骨格部である躯体や電気・機械設備の損傷につながり、建物全体の寿命を縮める要因となってしまいます。

これまで、本町ではこうした「事後保全」を行ってきましたが、今後は、建物をできる限り長く使うため、適切な維持管理を行っていくことが重要であり、そのためには、老朽化による劣化・破損等の大規模な不具合が生じた際に修繕等を行う「事後保全」だけではなく、損傷が軽微である早期段階から予防的な修繕等を実施することで機能・性能の保持・回復を図る「予防保全」を導入します。

また、「予防保全」を行うことにより、突発的な事故や費用発生を減少させ、施設の不具合による被害のリスクの緩和や、改修、日常的な維持管理の費用を平準化し、中長期的なトータルコストを下げることに努めます。

② 耐用年数の設定について

建築物の寿命は、構造、立地条件、使用状況の違い等によっても大きく左右されますが、階高や広さ等に余裕を持った建築物や新耐震基準施設(1981年以降建設の施設)は、計画的な保全を実施すれば100年以上も長持ちさせることができる可能性もあります。

しかし建築物の耐用年数は、老朽化による物理的な耐用年数だけではなく、経済的、機能的な観点から建替えや解体されることもあり、総合的な観点から目標耐用年数を設定します。

次頁要因のうち①法的要因については耐用年数が示されていますが、②物理的要因については、施設の利用目的に応じて様々な年数が設定されています。

③建築物特性要因については特に設定はなく、個々の施設の特性・機能、設置場所、社会的な要求、利用頻度、経済性等の建築物を取り巻く環境的による要因が使用年数を決めるものとなります。

表 耐用年数決定の要因

耐用年数 決定の要因		内容
①法的要因		固定資産の減価償却費を算出するために税法で定められた年数。
②物理的要因		建築物躯体や構成材が経年劣化等自然的原因、物理的あるいは化学的原因により劣化し、要求される限界性能を下回り、建築物が滅失する年数。一般的には、事前に自然崩壊する前に解体され、更新することになる。
③建築物特性要因	1)機能性	使用目的が当初の計画からの変更や、建築技術の革新や社会的要求の向上による機能の陳腐化もしくは、新たな要求が求められ、建築物の形態、構造等新しい要求に対応できない場合は、機能的な寿命に達したと判断し、更新することになる。
	2)経済性	建築物の機能が低下していく中で、不具合や故障が発生するため、事前にもしくは事後にその復旧を行う必要が発生する。不具合や故障の程度、頻度により、継続使用するための修繕費その他費用が、更新費用を上回り復旧する方が高額と見込まれる場合は、解体され、更新することになる。

※耐用年数の長さは、一般的には①<③<②となる。

【法的要因による耐用年数の決定】

減価償却資産の耐用年数に関する省令により、構造別に耐用年数が設定されています。

表 法的要因耐用年数

鉄筋コンクリート造 (最大)	木造 (最大)	鉄骨造 (最大)	その他 (最大)
50 年	24 年	38 年	41 年

参考：減価償却資産の耐用年数に関する省令

【②物理的要因から決める耐用年数の決定】

鉄筋コンクリート構造においては次表のとおり、「建築工事標準仕様書・同解説 鉄筋コンクリート工事（日本建築学会）」による鉄筋コンクリートの目標使用年数により、目標となる耐用年数が設定されています。

表 耐用年数

一般的な耐用年数	根拠
鉄筋コンクリート構造 65 年	日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説鉄筋コンクリート工事」による鉄筋コンクリートの目標耐用年数

また、「建築物の耐久計画に関する考え方（日本建築学会）」で示されている用途別・構造別の目標耐用年数を参考に、建築物の望ましい耐用年数が設定されています。

表 建築物用途・構造に応じた望ましい目標耐用年数

用途	構造種別	鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造		鉄骨造			木造
		高品質 の場合	普通の品質 の場合	重量鉄骨		軽量鉄骨	
				高品質 の場合	普通の品質 の場合		
学校・官庁		Y100 以上	Y60 以上	Y100 以上	Y60 以上	Y40 以上	Y60 以上
住宅・事務所・病院		Y100 以上	Y60 以上	Y100 以上	Y60 以上	Y40 以上	Y40 以上
店舗・旅館・ホテル		Y100 以上	Y60 以上	Y100 以上	Y60 以上	Y40 以上	Y40 以上
工場		Y40 以上	Y25 以上	Y40 以上	Y25 以上	Y25 以上	Y25 以上

出典：建築物の耐久計画に関する考え方（日本建築学会）

以上のことから適切な維持管理がなされることを前提に、前述の構造躯体の健全性の評価結果等に基づき、本町の学校施設の目標使用年数を次頁のように設定します。

【表 みやき町学校施設の目標耐用年数】

鉄筋コンクリート造 (長寿命化対象)	鉄筋コンクリート造 (長寿命化に不適)	木造	鉄骨造	その他
80 年	65 年	50 年	50 年	50 年

また、建築物を構成する部材には使用部位や材質に応じた耐用年数の目安があり、計画的に更新することが建築物の機能を維持しながら寿命を延ばすことにつながります。一般的に建築物の外部塗装や屋根（シート防水）、設備は15～20年での更新が望ましいことから、15～20年を一単位として改修・改築の周期を定めます。

(3) 設備等の改修周期の設定

設備等の改修時期については、下記改修周期を設定します。特に受変電設備を構成する電気機器には、更新時期が異なり、10～15年程度の短期で更新する必要のある機器があります。(高圧ケーブル、高圧開閉器、高圧コンデンサ等)

経年劣化や汚れ等により絶縁抵抗が低下し、電気事故の発生や電気の供給不能となるおそれが高まり、万が一、事故や故障等が発生しても、受変電設備の機器の多くは、在庫等が少なく、調達に期間がかかることから、すぐに復旧できない可能性が高く、施設等の運営に多大な影響を与えるおそれがあります。よって予防保全として電力供給の信頼性を確保することが重要です。80年供用を考慮した場合は原則として下記にならうものとしします。

表 80年供用を考慮した改修周期における設備改修保全内容

整備内容 \ 経過年数	0	10	20	30	40	50	60	70	80
内装、配管、配線			○		●		○		
空調機器、熱源		○	●	○	●	○	●	○	
衛生器具、空調ダクト			○		●		○		
受変電設備		●	○	●	○	●	○	●	
昇降機				●			●		
照明設備、防災設備			●		●		●		

●：全面改修または更新 ○：点検・オーバーホール

第6章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

1 改修等の整備水準

把握した現在の劣化状況を踏まえ、学校施設に関する統一的な方針として、今後の改修等による整備水準を設定します。

建築物の外部・内部仕上げ、設備等の経年による劣化や機能の低下を改修により改善を図ります。改修の内容は各建築物により築年数や老朽化の部位と程度が異なることから、劣化状況調査の結果を踏まえ、今後の改修整備においてどのレベルまでの整備水準を確保するのかを部位別に検討し、本町の学校施設整備水準の統一性を図るものとします。また、コストとの関連付けを図ることにより最適な仕様を設定します。

以下に、長寿命化改修において“①耐久性を高めるもの”（建築物内部・設備）、“②現代の社会的要請に応じ機能向上させるもの”（内部・設備）、“③多様な学習内容・学習形態への対応”（学習環境の多様化・安全安心な施設整備）、に区分した整備水準表を示します。

表 適用を検討する整備水準

部位		建設当初の標準仕様 (低)	改修工事の整備水準 (長寿命化改修)	省エネ型の改修	修繕レベル	
		《整備レベル》			(高)	
①耐久性を高めるもの						
外部 仕 上 げ	屋根・屋上	アスファルト防水	かぶせ工法によるシート防水	外断熱シート防水(ｔ-25) 外断熱保護防水(ｔ-20)	クラック補修 浮き部補修	
		シート防水	シート防水貼替			
		スチール鋼板屋根	塗膜防水			
		瓦葺屋根	割れた瓦の葺替え			
	鉄筋コンクリート躯体		※構造体の劣化状況調査	躯体の状況に応じた適切な補修	ひび割れ補修工法、中性化抑止工法、断面修復工法、鉄筋腐食補修	
	鉄骨構造体					
	外壁	RC部	モルタル下地外装薄塗材E(リシン吹付)	内断熱	複層塗材	
		鉄骨部	外壁ボード塗装(複層薄塗材)			セメントボード葺替え
	外部 開口部		アルミサッシ スチールサッシ・スチール扉	危険箇所の落下防止対策 既存サッシのガラス交換(複層ガラス等) ガラス飛散安全対策 塗装	サッシ交換(カバー・はつり工法)(複層ガラス)	シーリング打替え 開閉調整 塗装

※表に示す仕様は水準であり、実際に適用する際は、個別の状況に応じて改修内容を検討します

第6章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

表：適用を検討する整備水準

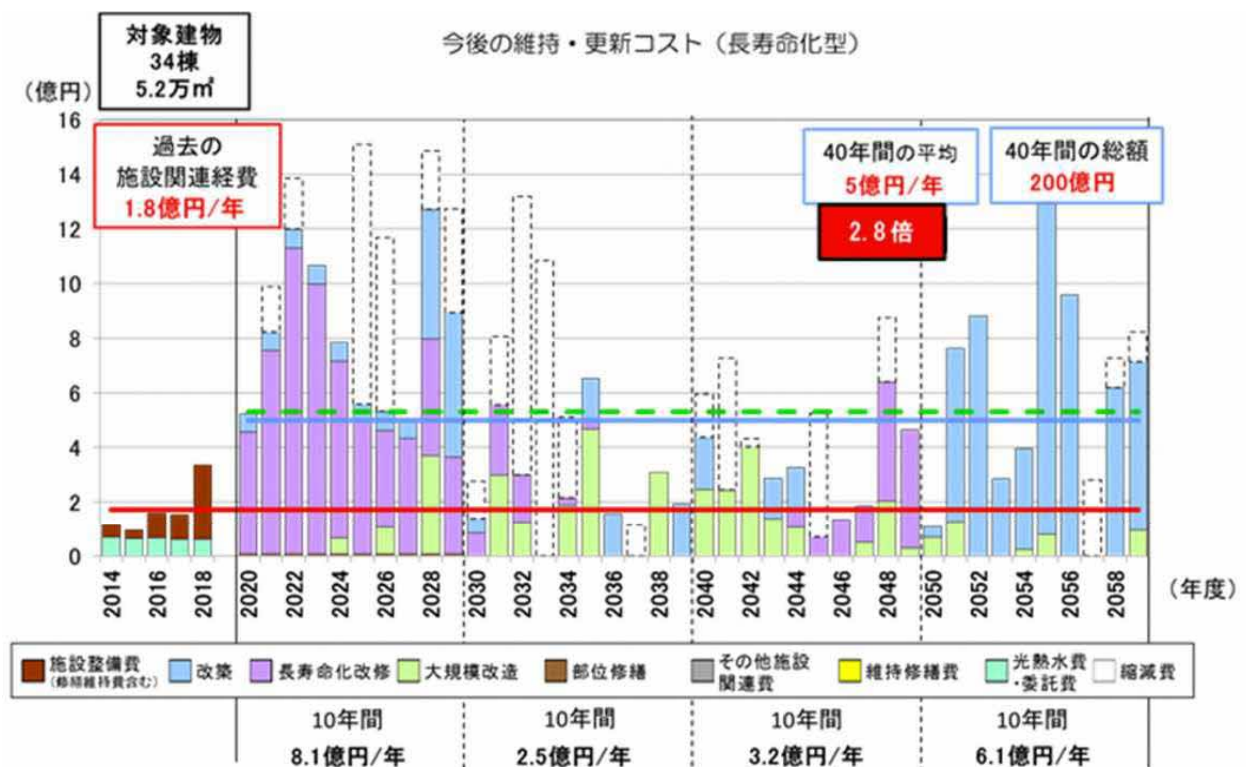
部位		建設当初の標準仕様 (低)	改修工事の整備水準 (長寿命化改修)	省エネ型の改修 (高)	修繕レベル
②現代の社会的要請に応じ機能向上させるもの					
内部 仕 上 げ	各室	内装材	一般材料(EP塗装)	空気汚染物質を発生させない材料に更新	内装の全面撤去・更新(木質化)
		換気設備	自然換気	機械換気	
	教室 (廊下)	間仕切壁	スチール枠・アルミ枠・木製扉	木製建具等	
		床	Pタイル、シート床、フローリングブロック	床補修、教室内の段差解消、適切なスロープ設置	床の全面撤去・更新(木質化)
		出入建具	木製扉	フローリング塗装、木製建具	
	階段室	防火戸	防火戸(建設時の基準法)	防火戸の改修	
	トイレ	床	ウェット式(タイル仕上)	ドライ式(抗菌シート)、段差解消	ウェット(部分タイル張り替え)
		衛生器具	和式便器、一般型小便器、水栓	洋式便器、節水型小便器、自動水栓	衛生器具交換
		照明設備	手動照明	自動照明	自動照明
	電気設備	照明設備	蛍光灯	LED照明	LED照明(人感センサー、照度センサー付)太陽光発電、太陽熱給湯
設備	給排水設備	給水	直結増圧給水方式 ライニング鋼管	硬質塩化ビニール管による配管の更新	雨水・中水利用、排水再利用
	空調設備	冷・暖房	ヒートポンプ式エアコン設置(教室・管理教室)		ヒートポンプ式マルチエアコン
	空調設備	冷・暖房	ヒートポンプ式エアコン設置(教室・管理教室)		ヒートポンプ式マルチエアコン
③多様な学習内容・学習形態への対応					
学習環境の多様化		対応なし	ICT※環境の設備		
内部	バリアフリー	スロープ等に手すり設置、案内板・カウンター設置、誘導ブロック設置、車椅子対応駐車場		多目的トイレの設置、乗用エレベーター設置	
	アスベスト	アスベスト封じ込め	アスベスト撤去		
	防災	非常用自家発電設備、災害時飲料用受水槽(20t)FRP製			
	防犯	玄関のモニター付インターホン、管理室～教室用インターホン、防犯カメラ			

※ICT:「Information and Communication Technology(情報通信技術)」の略で、通信技術を活用したコミュニケーションを指します。

2 今後の維持・更新コストの把握（長寿命化型）

本計画における長寿命化計画の対象建築物の維持・更新コストについて、文部科学省提供の試算ソフトにより、長寿命化を前提として試算した場合の結果は、以下のとおりです。

今後40年間の維持・更新コストは、総額で200億円と試算され、1年あたり約5億円の維持・更新コストが必要になると試算されます。



（設定条件）

更新周期：80年

改築単価：30万/㎡

長寿命化工事：40年周期 ただし40年超過しているものは10年以内に実施

大規模改修：20年周期

工事期間：1年

部位修繕			
D評価：	今後	5	年以内に部位修繕を実施
C評価：	今後	10	年以内に部位修繕を実施
（ただし、改築・長寿命化改修・大規模改修を今後10年以内に実施する場合を除く）			
A評価：	今後	10	年以内の長寿命化改修から部位修繕相当額を差し引く

3 維持管理の項目・手法等

(1) 点検・清掃等の実施方針

本町では施設管理のための専属技術者を配置しておらず、高度な点検を実施するのは困難であるため、日常の修繕等を丁寧に行い、劣化の進行を防ぐことが重要です。

また、数値だけでは判断できない劣化状況等も含めて情報共有・管理することで、すべての学校施設の中から緊急度の高い施設には修繕予算を配分できるようにします。

日常管理として以下の項目について定期的な点検及び清掃等を実施します。

表 建築点検・清掃項目

構造別	点検方法など
屋根・屋上	① 防水保護塗膜の点検 ② 定期的清掃点検 ③ 定期的手入れと点検
外装仕上げ	① 定期的清掃と補修 ② 定期的手入れ ③ 破損点検
建具	① 定期的点検、パッキン材取替 ② 定期的な点検整備 ③ 定期的清掃点検 ④ 締めつけ調整
内部仕上げ	① 定期的清掃と補修 ② 定期的手入れ ③ 破損点検
便所等水周り	① 定期的清掃、グリストラップの内部点検 ② 使用後の清掃、換気 ③ 拭き取り清掃
外構・その他	① 隣接地工事の際注意 ② 点検清掃

第6章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

表 設備点検項目

項目	点検方法など
電気設備	
① 電気主任技術者の選任	建築物の電気設備の契約電力が 50KW 以上の場合には電気主任技術者の選任が必要である
② 電気設備の法定	非常照明設備・自動火災報知設備などは「建築基準法」、「消防法」に基づく有資格者による定期点検・検査報告などが義務付けられている
給排水衛生設備	
① 消火設備	消火設備については、「建築基準法」、「消防法」に基づき有資格者による定期的な点検、検査報告などが義務付けられている
② 給排水衛生	運転維持管理について有資格者の選任や検査・点検事項・時期などについて法令で規制されることがある
冷暖房換気設備	
冷暖房換気設備の維持管理	冷暖房換気設備を構成する機器は回転振動などによる摩擦、劣化などが起きるので定期点検整備が必要
ガス設備	
ガス設備	ガス漏れ検査装置、その他安全装置については定期的に専門業者の点検を受ける
汚水浄化槽設備	
日常点検・保守	消毒液を常にタンクに確保しておく 駆動装置及びポンプ設備は、常時作動させておく

第7章 長寿命化の実施計画

1 改修等の優先順位付け

施設の状態（劣化・損傷の状況や要因等）の他、当該施設の機能、生徒数、重要性等、対策を実施する際に考慮すべき事項を設定の上、それらに基づく優先順位の考え方を明確化する必要があります。改修の優先順位は下記のとおりとします。

（１）安全性に不安がある棟

施設の安全安心の確保のため、直接人的被害につながるような外壁落下対策等が必要な棟については優先的に改修・修繕等を行います。（D判定）

（２）建築物の機能維持に改修が必要な棟

建築物としての機能を維持するために、屋根・屋上等の対策や外壁等のひび割れ対策が必要な棟については、優先的に改修・修繕等を行います。（C判定）

（３）いつ故障してもおかしくない状況にある設備

新築以来、更新をしていない設備で改修周期をはるかに超えている設備などは、いつ故障してもおかしくない状況にある設備は改修・修繕等を行います。（ヒアリングによる調査）

特に電気設備は施設利用に大きく影響するため、計画的な更新が必要です。

上記３項目についての優先順位は下記のとおりとします。

表 検討項目と優先度

検討項目	優先度 (実施時期)
【安全性に不安がある施設】 直接人的被害につながるような安全対策工事	最優先で実施 (直ちに計画)
【建築物の機能維持に改修が必要な施設】 漏水等、施設の基本的機能に支障が発生する可能性がある劣化対策工事	優先的に実施 (1～3 年程度)
【いつ故障してもおかしくない状況にある設備】 改修周期を超えて更新等がされていない老朽化した電気設備や熱源施設の更新対策	優先的に計画 (5 年程度)
上記いずれにも該当しない	別途検討

2 実施計画

(1) 安全性に不安がある棟

簡易劣化調査において、直接人的被害につながるような対策が必要な棟に該当する棟はありませんでした。

(2) 建築物の機能維持に改修が必要な棟

建築物としての機能を維持するために、屋根・屋上等の対策や外壁等のひび割れ対策が必要な棟については、今回の簡易劣化調査においてC判定となった棟は下記12棟です。これらについては、改修計画を策定します。

(3) いつ故障してもおかしくない状況にある設備

設備については、普通教室に空調が新設され、またその際に受変電設備も更新されています。

表 改修優先順位 上位リスト

(1) 安全性に不安がある棟			
学校名	棟名	No.	理由
該当無			
(2) 建築物の機能維持に改修が必要な棟			
学校名	棟名	No.	理由
北茂安小学校	第一東棟	15	屋根屋上 C判定
中原中学校	北校舎	25	屋根屋上 C判定
北茂安中学校	部室	32	屋根屋上 C判定
三根西小学校	講堂	3	外壁 C判定
中原小学校	体育館	9	外壁 C判定
中原小学校	南校舎	10	外壁 C判定
中原小学校	北校舎	11	外壁 C判定
北茂安小学校	特別教室棟	16	外壁 C判定
北茂安小学校	普通教室中棟	17	外壁 C判定
北茂安小学校	普通教室中棟	18	外壁 C判定
中原中学校	技術棟	27	外壁 C判定
(3) いつ故障してもおかしくない状況にある設備			
該当無			

3 今後10年間の整備内容

今後10年間の実施計画における整備内容は、基本的に前述の優先度を基本として、「屋上・屋根」「外壁」の劣化状況評価のC評価について実施することとします。さらに、具体的に今後10年間で実施する計画については、普通教室棟等を中心に、児童・生徒の安全面等に問題が発生するおそれのある個所や、躯体の老朽化の進行を防ぐ工事を優先に行います。

第8章 長寿命化計画の継続的運用方針

1 情報基盤の整備と活用

策定した実施計画の見直し等を行うため、学校施設の状況や過去の改修履歴等をデータとして蓄積し、確実に更新することが重要となります。

以下の情報を適切に管理し、学校施設の状況を把握することで、改修内容や改修時期について総合的に判断します。

各情報データは、施設状況に変更が生じた際や調査、報告が行われた際に適宜更新するほか、毎年度、更新の有無を含め、内容を確認します。

必要な情報管理
○学校施設台帳・・・学校施設の基本情報、大規模改造事業等の履歴
○学校施設工事履歴・・・改修・修繕工事の履歴
○学校資料集データ・・・学校施設に係る各種詳細情報（財産、仕様、設備等）
○修繕工事要望・・・各学校からの修繕要望
○本計画における劣化状況調査結果・・・施設の劣化状況、相対的な老朽度の評価

2 推進体制等の整備

本計画策定後も、学校施設の老朽化は進行し状況は変化していきます。また、学校施設に求められる機能や水準も変わっていくことが考えられます。

これら学校施設の状況を的確に把握するためには、学校や教育委員会各課、点検等実施業者との連携が重要であるほか、課題解決に向け、財政課などとの連携も欠かせません。本計画に基づき長寿命化を確実に実施するため、関係部署との連携をより一層図り、推進体制を充実させていきます。

3 フォローアップ

安全で快適な教育環境を維持するためには、継続的な学校施設の維持管理や改修が必要となり、財政支出面で大きな負担となります。国庫補助事業等を最大限に活用し、財政支出の縮減を図ります。

4 フォローアップの推進

今後、本計画に基づくフォローアップを実施し、適宜の見直しと内容の充実を図っていくものとし、今後の財政状況や社会環境の変化があった場合に計画の見直しを行います。

推進計画の定期的な検証と見直しにあたっては、推進計画の策定（Plan）、アセットマネジメントの取組みの実施（Do）、実施結果の検証（Check）、推進計画の見直し（Action）といった、PDCA のマネジメントサイクルに基づいて実施し、次期計画期間に更新時期を迎える公共施設の複合化等についても、合わせて検討を行います。実施結果の検証では、推進計画の進捗状況の評価や施設老朽化度の判定等、取組みにより、目標とする成果が現れているかといった視点での検証を行います。

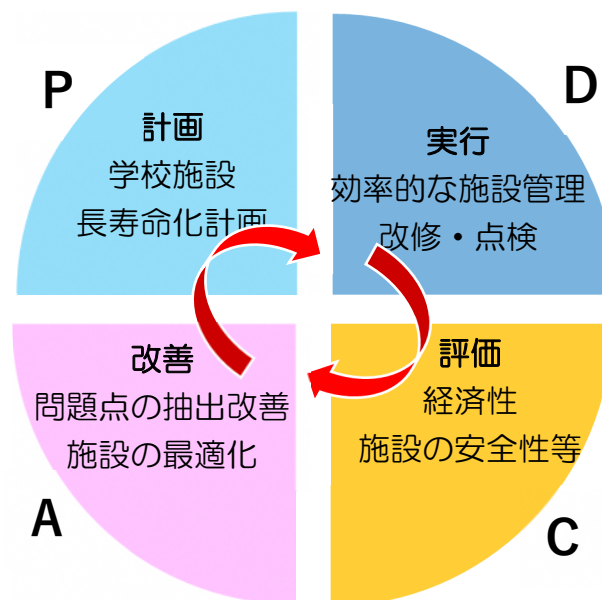


図 PDCA サイクルイメージ

